

NPO法人 北海道自由が丘学園・ともに人間教育をすすめる会

(振込先:郵便局 02790-6-9847 北海道自由が丘学園をつくる会)

〒062-0051 札幌市豊平区月寒東1条15丁目5-11 TEL(011)858-1711 FAX(011)858-1333

URL <http://www.l2.plala.or.jp/hokjioka/> →変更:www.hokjioka.net E-mail : codmokan@agate.plala.or.jp

支援会員・寄金 3,000円(年額)
*会員には、本誌を配布します。



《写真説明》'13.12/19
釧路教育大実習第3回目
前半の授業の後はクリスマス行事！オリジナルツリーとオリジナルケーキを完成させてパーティの始まりです。

INDEX

- P1: 巻頭言/
- P2: ヒューマントラスト/
普及活動、実践取組み
- p3: エッセー/鈴木秀一
- p4-5: 教育大実習/授業
- p6: ↓ /ルク・行事
- p7: ↓ 、写真など
- p8: 時事、カレンダー、他

「多様な学びの場、学び方を学ぶということ」

認定NPO 法人理事長 吉野 正敏

新年にあたり全国紙A新聞は、紙面の1~3ページの1/3以上をとり「教育特集/世界は、日本は」を組みました。そこでは、一方で「エリート」コースや学校制度疲労に対置した「反転授業：事前に視聴覚ツールで自宅学習、授業では個別指導中心」やプロ教師のノウハウ活用を取り上げ、他方では、画一・マス・集権ではなく市民・保護者等の地域の声を理念・方針とする私学、いわゆる市民立型の学び舎も紹介しています。～北欧を先進とするフォルケホイスコーレ（運営費70%を国家補助）、アメリカのチャータースクールやホームスクーリング、シュタイナー学校、塾あれこれ。

日本ではかつて大正デモクラシー時代に新教育運動があり、そこでは従来の座学・知識習得型から子ども自身の自由な発想と生活体験を中心とする学び方が提案され、多くの私学が新設されました。

さらに戦後、高度成長の中で、偏差値・学歴主義や管理主導に拠らない人間（全人・自由）教育は、埼玉の自由の森学園や和歌山/きのくに子どもの村学園、市民立の愛知/黄柳野高校などに受け継がれています。新聞では残念ながらこれらの実践に触れられていません。

子ども若者は、科学・文化・芸術・生活・スポーツ・「農業(生産的活動)などを《学ぶことが面白い》《仲間との遊びや共同作業》というプロセスを通じて体験しながら、『学びとは何か、人間社会はどういうものか』『何のために学ぶのか』を理解習得していきます。その意味での学校は、【学び方を学ぶ場、多様な見方・考え方を知る場】であり、彼(女)らはそこから自己発見・自立を導いていくのでしょうか。

そして関わる大人・専門家は良き先輩、時に「反面」教師としての役割を担うのでしょうか。